

「ふえふき通信」



レポート by 奈緒

自宅で作れるようになったよ!!

～家事教室参加者へ～

インタビュアー

支援センターの家事教室では、障がいのある方が家事の基本を学んでいます。参加者にとって家事がしやすい方法を、職員とボランティアが参加者と一緒に考えて見つけていくので、誰でも安心して参加することが出来ます。今回、参加者のAさんと家事教室担当者にインタビューしました。

Aさんってこんな人

家事教室歴4年・一人暮らし男性
・精神障がい・性格はまじめで穏やかな反面、同じことを考えすぎで動けなくなってしまうことも…

Q 参加しようと思ったきっかけは？

Aさん 「父が亡くなり一人暮らしになって、色々な料理を覚えたいと思って。」「担当者」新しいことにチャレンジすることが苦手なAさん。初めて参加するまでは、1年近く何度も誘いました。

Aさん 「最初は何をすれば良いのかわからなくて、血洗いはかりしていた。」「担当者」血洗いの手際はとても良くなりましたね。片付けは最後まで責任を持って行ってくれて頼もしいです。



Aさんが自宅で作ったほうれん草のおひたし



家事教室で作ったカレーライス

Q 参加して作れるようになった料理は？

Aさん 「カレーライス。ルーの箱に書いてある作り方を見て家でも作れるようになったよ！水の量を間違えちゃうことがあるけど…。」

担当者 「家事教室で毎月カレーライスを作り、何度も作り方を勉強することで自信が付き、自宅でもできるようにになりました。他にも卵焼きや鮭のホイル焼きなど学んだ料理を自宅で作ったり、家の調味料の種類が増えたりと少しずつ挑戦する範囲が広がっていますね。」

Aさん 「今度は家にある料理本のメニュー、いくつか作れるようになりたいな。」

できることを一緒に増やしてじゃん!
By ボランティア



家事教室の様子

Q 家事教室のおすすめは？

Aさん 「参加者とボランティアと一緒に食べることも楽しい。」

担当者 「ここではAさんが安心して新しいことに挑戦ができています。これからも学んだことを生かして自宅での生活を充実させていってくださいね。」

家事教室

隔週水曜日9:30～12:30頃まで。
※参加費は無料ですが、材料代がかかります。
詳細は支援センターまでお問い合わせください。

手話のこと・聴覚障がいのこと

～羽田さんをインタビュー～

●聴覚障がいってどんな障がい？

聴覚障がいの方々は、私たちが普段当たり前に聴こえてくる「音声」が聴こえません。外で雨が降っている音、隣の部屋で子どもが泣いている声、人の話し声、火事や地震で建物が崩れる音…。私たちは音を聴いて行動することが多いですが、聴覚障がいの方々はそれが難しいのです。また、「音声」は様々な情報を持っています。聴覚障がいの方々は、単に「音声」が聴こえないだけでなく、「情報が入りにくい」という不便を抱えています。

●手話のこと、聴覚障がいのことを知ってほしい!

聴覚障がいの羽田さんは、手話を使っています。聴覚障がいの人は、手話を使う人と使わない人がいます。手話を使わない人は、口の形や筆談で会話をしています。

Q どうして羽田さんは手話を使っていますか？

羽田さん 「手話を使って会話をしたかったんだよ。昔は、手話は「猿真似」だと言われ禁止されていたけど、手話は私たちにとって「言語」だから、こっそり一生懸命覚えたよ。」

Q 皆さんに伝えたいことはどんなことですか？

羽田さん 「健聴の人で手話を使える人は少ないね。病院や市役所に行ってもうまく会話ができないこともある。手話で難しい会話はできなくても、簡単な手話を知ってもらえたら嬉しいな。手話がもっと普及して、みんなに興味を持ってもらいたいよ。そして、以前コンビニでお会計をした時、店員さんに何かを聞かれたが分からなかった。私が聴こえないんだと分かったら、店員さんは何も言わずに箸を袋に入れてしまったよ。きつと箸が何膳必要かってことだったのかな…。そういうことがある度に、聴覚障がい者のことをもっと知ってほしいなと思うんだ。」



レポート by 慶

私は今年度、手話奉仕員養成講座に参加して手話を学んでいます。「ありがとう」や「大丈夫」「こんにちは」などはすぐに覚えることができました。聴覚障がいは、目で見て分かりにくい障がいです。誰もが暮らしやすいまちになるように、お互いを知り合ってください。



一口手話

ありがとう

大丈夫?

覚えて使ってみてね!

